

平成30年度半田市障がい者自立支援協議会

第5回現場職員向け研修ダイジェスト

発行元：半田市 平成30年10月

現場職員向け研修では、福祉事業所などで働く職員に対して、利用者の障がい特性や支援のポイントを学んでいただくための研修を行っています。

第5回研修では、愛知県高次脳機能障がい支援拠点である名古屋総合リハビリテーションセンターにおいて高次脳機能障がいの方々への支援を行われている後藤氏から、高次脳機能障がいの症状や抱える問題、支援方法についてお話いただきました。

■講師：後藤 希氏（名古屋市総合リハビリセンター）

■日時：平成30年10月15日（月）10時00分～12時00分

■場所：半田市役所 大会議室

■内容：高次脳機能障がいの理解と支援のポイント

■参加人数：48名



高次脳機能障がいとは…？

事故や病気により脳に傷がつくことが原因で起こる後遺症で、半数以上が交通事故によるものである。見た目は今までと変わらないにもかかわらず、社会生活がスムーズに送れなくなってしまうため、『見えない障がい』と呼ばれる。

高次脳機能障がいの主な症状

① 記憶障がい（※約90%の人に当てはまる）

- ・すぐに忘れてしまう
- ・新しいことを覚えるのが苦手
- ・何度も同じことを聞く
- ・約束を忘れる など

② 注意障がい

- ・同時に複数のことに注意を払えない
- ・うっかりミスが多く、集中力が続かない

③ 遂行機能障がい

- ・物事を関連づけて考えることができない
- ・段取りや要領が悪い など

④ 社会的行動障がい

- ・些細なことにこだわり、キレる
- ・すぐにイライラする
- ・欲しいと思うと我慢ができない など

支援のポイント

- ◆将来的な自立をイメージし、『最小限の介入』で教える
- ◆使える手立ての活用
メモリーノートや携帯電話、日課表や手順書など
- ◆行動が定着するように支援
直接的な介助よりも声かけ・見守り
関わる方全員一致したアプローチ
- ◆かかわり方の工夫
簡潔な説明、必要なことは書いて残す
- ◆環境を調整、構造化する
行動のポイントを文字や図にして「見える化」する
- ◆「できない」を「できる」でカバーする
残された能力を活用する方法を考える

具体的な対応例

- ・『ゆっくり』、『丁寧』、『具体的』に話す
- ・約束が守れたら『ほめる』
- ・約束が守れなかったことは、その場で一緒に原因・対策を考える

高次脳機能障がいの問題

- 外見では分かりにくい（軽症：会話に支障なし）
- 本人も自覚することが難しい（軽症：障がいの前に獲得されたものはそれほど失われていない）
→誤解を受けやすく、本人はできていると思っているため社会的なトラブルが起きる

お問い合わせ先

半田市障がい者相談支援センター（青木・森）
TEL：0569-21-5585
半田市 地域福祉課（杉浦（郁）・杉浦（友））
TEL：0569-84-0643